荒尾市立府本小学校　校長便り　№７３

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和８年２月６日(金)

卒業前雑感　「素直さと感謝」

学力や体力、スポーツや習い事等のテクニカルスキルを向上させるために必要なことは何かと聞かれて、私はこう答えます。「指導や指摘を素直に感謝して受け入れること」

最近になって思うのですが、人は年齢が上がるにつれて色々な事に自信をもてるようになるのですが、それはそれで必要なことではあります。しかし、自分の考えや行動を絶対だと思い込み、周りからの指摘や指導に耳を傾けられなくなることがよくあるように思います。「初心忘るべからず」。私達のように閉鎖性の強い現場にいると、時間に比例して頭が固くなっていくことがあります。それに気付かないと壁に打ちあたったり、思い通りにいかなかったりすると、言い訳をしたり、責任を他に転嫁したりします。ましてや私達はプロの教師ですから、できる限り責任の矛先を自分に向けなければなりません。そこで、原因を素直に見る、受け入れることができれば、解決の糸口が見えてきます。

私が、これまでに担任をさせて頂いた子ども達の活躍ぶりを見ていて感じることは、大人の指導を素直に受け入れ、真摯に泥臭く努力することができる子達が、夢を実現させているような気がします。逆に、夢をあきらめざるを得なくなった子達はどうだったろうかと考えた時、やはり思い浮かぶのは「素直さの欠如」と「責任転嫁」です。そして、「どうせ俺は…」「私はちゃんとやっているのに…」と、やる気を無くしていきました。逆に夢を諦めざるを得なかった子達の中にも、素直さを取り戻し、責任の矛先を自分に向けた子は、新しい道をしっかり歩んでいっているようです。

６年生は４月から非常に大事な３年間を迎えます。自分の「素直さ」「初心」を、考える良い機会です。

私の中学校時代　中学生とお金

中学校に進学するこの時期、いわゆる思春期、子ども達は色々なことに興味を持ち始めます。趣味の世界、友達との付き合い、自分だけのために…と、色々な世界に積極的に関わっていきます。そして場合によってはお金がかかることもあります。私達保護者としては、悩ましい問題ですが…。「友達とも多くの面で関わりを深めて欲しいけれど、どこまで「良し」とすべきか…、友達と良い関係を保つために必要なお金は渡さなければならないけれど、中学生に見合った金銭教育はしていかないといけない…。今、周りの友達はどれくらいのお小遣いをもらっているのだろう？うちは必要最低限だと思っているけど、それで寂しい思いはしていないだろうか？」

自分のことを思い出してみました。私の場合は、中学入学当初、月に一度のお小遣い制でしたが、色々なことに興味が出てきてからは、その時々で親に援助をお願いしていたようです。両親も多少は目をつぶってくれていたようで、うちはこれで何とかなったようです。今と時代が違いますからね。これから、私達保護者は子ども達の精神的な過渡期にあたり、お金の大切さやその活用について、指導を徹底していく時期に入ります。各ご家庭では、今年のお年玉の遣い道は如何でしたでしょうか？我が家の場合、すべて親が一括管理していました。お年玉はどのようなお金なのかを諭し、そして一つだけ欲しいものを聞いて、それが必要なものかどうかを自分達で判断させました。子どもなりに「無駄遣いにならないようにしよう。」という気持ちで選んでいたようです。

少し話が飛躍しますが、驚くべき事件があります。子どもの欲求のままに色々なものを与えているとどうなるか？　ある町で放火事件が起きました。二階建て一軒家を全焼してしまいます。捜査は短時間で終了しました。犯人はその家に住む中学２年生だったのです。事情を聴いてみるとなんと放火の理由はこうでした。

「父親にゲーム機を壊された…。」

時間を決めてゲームをしていた。ある日、のめり込んでしまい時間を忘れてゲームをしていた中二の少年。「家がなくなればいい。」と、本気で思ったらしいのです。先を考えず感情に任せて動く青少年たち。何でも買い与え、子どものわがまますべてを許容し甘やかした結果です。ゲームやスマホもお金に絡む問題です。看過する訳にはいきません。

シリーズ「自分を語る」#73

伊倉小学校勤務２年目を迎えようとしていました。住めば都とはよく言ったもので、私も伊倉小学校での生活を楽しめるようになっていました。次年度の担任希望は、もちろん持ち上がりの４年生です。私も保護者も子ども達も当然そうなるものと考えていました。そんなある日、校長室にまたまた呼ばれます。（私は、なぜか、校長室に呼ばれることが多い人生を歩んでいます。これも、中学校時代から体育教官室に呼ばれていたあの流れが続いているような気がします！？）

長「澤田先生、今年は希望ある？」

澤「できれば４年生を…。」

長「去年、高学年を希望していたよね？　今年先生が４年生に持ち上がれば、そのまま５年生担任とは考えにくいよ。どう？　今年５年生は？」

狐につままれたような気分でした。当時の伊倉小学校では持ち上がり学級が殆どで、私もそうなるものと思っていました。校長先生は更に続けられました。

「先生は去年、高学年を希望する理由として、学校全体を動かしていく魅力が高学年にはあると言っていました。私も同感です。昨年、先生に３年生担任をお願いしたのは、やんちゃなクラスが二クラスになって、もし担任のコントロールできない状態になったら、それこそ学校の危機です。３年生という学年はそれくらい重要な学年です。澤田先生は１年で信頼関係を築き、先生が５年生担任となったとしても、その信頼関係は続いていきます。という訳で、５年生を担任しながらも、同時に４年生もコントロールして欲しいのです。更に付け加えます。これは学校運営上、必要な人事です。分かりますね。」

読者の皆様はもうお分かりでしょう。命令ですから従わなければなりません。まぁ、昨年希望していた学年でもあり、さほど悩むこともなく校長先生のお話を受け入れることができました。

この頃は、私４０歳くらいで、学校現場ではバリバリ仕事をこなさなければならない世代でした。この年は、体育主任としても仕事をさせて頂き、他校の先生方とも交流を深めさせて頂きました。仕事を面白いと感じていた頃です。以前にもまして、精力的に動きました。（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　　可　・　不可　）